



涌波 満(著)

「実践 Family Medicine」

琉球大学医学部附属病院地域医療部

武村 克哉

大学の地域医療実習・研修を担当している私のところには、著者涌波満先生のクリニックで実習・研修した学生・研修医から、「家庭医の役割が如何に幅広いかに驚いた」「患者さん一人ひとりに対応の仕方を変えている。わかっていても、それをさりげなく実践している先生はすごい」といった熱い感想が寄せられていました。一体そこではどのような診療が行われているのか内実を知りたい…と思っていた時、この本に出会いました。著者は、アメリカ・ミシガン州立大学にて Family Medicine を学び、認定医の資格を取得し、それを維持しながら、沖縄の北中城村という地域で Family Medicine を実践しています。この本を読むと、なるほど学生・研修医が感銘を受けたわけを一部垣間見られた気がします。

この本では、著者が Family Medicine の基本理念を大切に、地域の状況に合わせた診療をいかに実践しているのか、週間スケジュール、業務内容を含め具体的に記されています。各章節では冒頭に症例が提示され、日常診療でよく遭遇する健康問題にどのようにアプローチしていくのかを追体験できま

す。それぞれの症例には、ナラティブな視点の段落があり、著者が患者さんの生活・人生とともに歩んでいることが窺えます。また、Family Medicine と関連が深い、予防医学、高齢者医療・介護についても紙幅が多く割かれており、医療・福祉・介護施設、スタッフとの連携について具体的に記載されています。

著者は、奥様であり認知症サポーター医でもある涌波淳子先生の協力の元、ほとんど一人でこの本を執筆されました。そのため、この本からは著者の Family Physician としての矜持、一貫した哲学がひしひしと伝わってきます。本のあとがきによると、著者が Family Medicine を目指すきっかけとなったのは、北海道大学名誉教授 前沢政次先生の家庭医を紹介した論文との出会いにあるそうです。この本もまた、家庭医を志す若い人(気持ちの若い人も含めて)たちの座右の書となる一冊であると確信しています。

- A5 判／216 頁／定価 2,520 円(本体 2,400 円＋税 5%)
2011 年／医療文化社刊(Tel : 03-3593-0038)